

「でも私たちは正しく生きよう」

～しみも傷もない→忍耐の実～

Ⅱ ペテロ 3:9～18

ある人が高速道路を走っていました。そうすると奥さんから電話が鳴って、「今、ニュースで高速道路を猛スピードで逆走している車がある。高速道路走っているのでしょうか？気を付けて。」と言われました。男性は、「今、自分の車に対して、他の車が逆走しているんだ！」と言いました。逆走しているのはこの男性でした。この男性はまさか自分が逆走しているとは思っていませんでした。

人というのはこのように自分がやっていることは間違っていないと思ってしまう、道を間違える事があります。これが危険です。『自分は正しい、自分の言っていることは正しい。』と思ってしまう。聖書には「自分の悟りに頼るな。自分を知恵のある者と思ふな。」(箴言)と書かれています。私たちは自分に自負があるほど中々これらを捨てる事ができません。「昔はこうやったんだ…」というのがあると、どれだけ素晴らしい事をしてきたとしても、自負はその人の中に残ってしまい、その人の人生を駄目にしてしまいます。

先週の聖書箇所から

【Ⅱペテロ 3：1 記憶を呼びまさせて】とペテロは言っています。私たちはいざとなると高速道路を逆走した男性のように自分のしていることがわからなくなってしまい、「自分がまさか」とは思わない為、大失敗をしてしまいます。このことから、私たちはどこに行こうとしていたのかどっちに行くべきだったのかを、記憶を思い出さないとはいけません。【3：1 純真な心を奮い立たせる】とあります。何かをするとき、たとえ良い事であっても純真な心を忘れてしまうと、意味のない事になってしまうことがあります。私たちは神様によって語られた御言葉と主であり、救い主である方の命令をもう一度思い出さなくてはなりません。神様は【神の国と神の義とをまず第一に求めなさい。(マタイ 6：33)】と言われました。

約束を送らせているのではない

【3：9 その約束のことを遅らせておられるのではありません。】ペテロは、神様は私達の人生の中で、私たちに新しい天と地を再臨の時を迎えようとしているのだと話をしています。この時代、ペテロたちは大変な迫害の時代にありました。民衆は『いつイエス様が迎えに来てくれるのか』と心待ちに待っていたのです。しかし多くの人たちが、『まだ来ないではないか!』とっていました。その中で、「遅らせておられるのではない。」とペテロが話をしたのです。【3：9 あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。】神様は忍耐していることがここでわかります。正しい人が苦難に合っても、葛藤の中に追い込まれようとも、神様を知る者は神様の元へ帰れるのだから、まだ神様を知らない人を何とか救おうと忍耐をしまっているのだとペテロは言っています。

私達は今チャレンジの時です。そんな時だからこそ、イエス様の香りをあらわさないとはいけません。チャレンジの最中には様々な妨害が起こります。そうすると人間的に心が騒ぎますが、神様が忍耐をしているのに私が忍耐をしない方がいいのだろうかと思わされます。ですから葛藤、迫害、妨害が起こりますが、【3：10 主の日は、盗人のようにやって来ます。】私たちが忍耐をするのは、この日のためなのだということがわかります。

【3：11 このように、これらのものはみな、くずれ落ちるものだとすれば、あなたがたは、どれほど聖い生き方をする敬虔な人でなければならぬことでしょうか。】みなさんはどうでしょうか。あなたが聖く、正しく生活をしていなかったら、明日地球が滅びるときにあなたも滅びると神様から宣告されたらどうしますか？実際私たちにはそれがいつかわからないのです。ですから私たちは毎日を大切にしなければいけません。

【3：12 神の日の来るのを待ち望み、その日の来るのを早めなければなりません。】私たちは今、チャレンジを受けているからこそ、前向きにあなたが出来る祈りをしっかりと積んでいきたいのです。

【3：14 しみも傷もない者として、平安をもって御前に出られるように、励みなさい。】どうすれば、これらを全うすることができるのでしょうか？私たちが正しく生きる方法として、しみも傷も無いものが得られるのです。どうやったら得られるのかという【忍耐】です。【3：15 主の忍耐は救いであると考えなさい。】と書かれています。短気になり壊してしまうのではなくて、【忍耐】が必要です。相手が悪く出てきたとき、そのまま悪い態度を取ってはいけません。平安の中に生きるためにどうやったらいいのかというと、【忍耐】して乗り越えることです。【3：16 無知な、心の定まらない人たちは、聖書の他の箇所の場合もそうするのですが、それらの手紙を曲解し、自分自身に滅びを招いています。】私たちが聖書の御言葉を間違えて理解して、あたかも自分が真っすぐ走っていて、逆行していないようなことを御言葉をつかかって言うてしまうことがあります。またあなたが正しくやろうとすることに対して、御言葉をもって妨害をされたり、また教会内、外を問わず誘惑や妨害がこれから起こってくるかもしれません。その時にしっかりと御言葉に立ち【3：17 無節操な者たちの迷いに誘い込まれて自分自身の堅実さを失うことにならないようにしなさい。】だからあなたの【3：1 純真さ】を保つようしなければいけません。また【3：18】イエス様のように成長して、見極められるようにならないければいけません。試練が与えられたことは何故なのか、それに向かうのは何故なのか、結果神様は何をしようとしておられるのか。私たちは今こそ感謝し受け取るチャンスです！

ラオデキアの教会【黙示録 3：17～19】

ラオデキアはかつて非常に豊かな場所でした。しかし神様はラオデキアの人たちの信仰をみて「生ぬるい信仰」と言いました。「熱くもなく冷たくもない。」と。ラオデキアには2つの水が流れ込んでいました。一つは8キロ離れた場所に温泉があり、そこから流れ込んでいました。ラオデキアに到達するころには生ぬるくなっていました。もう一つは、冷泉が湧き出す湖から水が流れ込んでいましたが、こちらもラオデキアに到達するころには生ぬるくなっていました。二つの源泉はどちらも本来の姿ではなくなってしまっていました。

私たちが、金銭的に豊かになるとこのような事が起こります。ここで考えさせられるのは自分たちが持っているものでは何も解決することはできないということです。神様が造ってくれたものでしか、乗り越えることができません。【黙示録 3：18】持っているものをみると、私たちは間違った目になり、間違ったものに頼り、自分はこのがあるから大丈夫と思われ壊れてしまいます。豊かだと勘違いをしていると、本当に足りないものがわからなくなってしまいます。【黙示録 3：19】ラオデキアは手に負えないような状態になっていました。しかし神様は、チャンスを残し立ち直るきっかけを与えようとしました。今、日本はラオデキアの状態と同じようになっています。「●●があれば大丈夫。」と言ってきましたが、それは大丈夫ではありません。私たちは、神様の時がいつ来ても良いようにしっかりと備えて、身体が元気であることができるようにしっかりと保ち、妨害に合う時には感情的に立ち向かわないように忍耐しましょう。

「だから信仰には徳を徳には知識(体験)を、知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には、敬虔を、敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。」Ⅰペテロ 1：5

最後に…

ペテロのメッセージが今回で終わりをむかえました。私たちはもう一度、考えなければいけません。私たちのしようとするものの価値観の中心に愛があること、そこには神様が共におられるのかということ。どんな苦難がおころうとも御言葉の土台に立って乗り越え成長させていきたいと思います！

(要約者:富岡 牧)

(2021年8月22日)